

保護司国際研修に参加して

大分保護観察所 保護司 後藤 文博

平成28年度第2回保護司国際研修に参加させていただき、貴重な経験が多く出来ましたことを感謝致します。

大分保護観察所から国連アジア極東犯罪防止研修所（アジ研）のセミナーに参加要請の電話を頂き、詳しく分からないまま引き受けてしまいました。数日後、アジ研より保護司国際研修実施要領が届き、拝見しましたら参加者は諸々の条件に該当する者とありましたので、私で良いのかと思いましたが、引き受けた後でしたので決心しました。

事前にプロフィールを提出するに当たり、保護司委嘱時の事を思い出し、9年目になった今を見つめ直す良いきっかけになりました。

研修の目的は、日本及びアジアを中心とする諸外国における犯罪者処遇に関する諸問題を検討することと、日本の保護司の活動内容等を紹介するものでした。

テーマは事例紹介（保護観察、生活環境の調整）と活動紹介（社会貢献活動等）でした。

そこで私は、社会貢献活動を取り入れた事例を発表しました。事例の概要は経済的に恵まれない家庭環境で育ち、保護観察となった本人が、老人福祉施設で社会貢献活動に参加し、自己有用感を感じているというものでした。

その後、数種の資格を取得し将来は会社を経営したいという夢を持ち、今一生懸命頑張っており、必ず夢を達成出来ると思っています、という内容でした。

皆さんから発表された事例も自分が関わった事例ですので実感があり、保護観察で苦労したことや更生して行く喜びを発表され、私自身の思いと重なり、うなずいたり納得したり、皆さんと同じ気持ちであり、同じ体験をしていると感じました。

質疑応答では、保護司活動はボランティアなのに経費はどうしているか？の質問があり、個々の保護司から年金で何とかやり繰りしている、自作の野菜が高く売れるので助かっている、善意の寄付で賄っているなどユーモアたっぷりの回答があって和やかな雰囲気の中で行われました。

廊下ですれ違う時、国際高官セミナー参加者から私の名札を見て「ミスターゴトー」と呼び掛けられ戸惑いましたが、私の知っている限りの英単語を振り絞って、何とかコミュニケーションがとれました。

また、某国では保護観察官が8名で、2名が同セミナーに参加しているとのこと、国によって更生保護事業も当然異なります。日本の先輩保護司の御苦勞があつての今です。お礼申し上げるとともに保護司制度に感謝しています。

研修終了後の参加者と教官との夕食会は、4名1組でアジ研の職員の方に通訳をしていただき、国によって食べ物、ビールなどの制限がありますが、言葉でお互い理解し合い、意思疎通ができるもので、言葉の大切さを思い知らされました。また懇談会では、保護司会活動及び運営は地域性などで異なりますが、保護司同士の親睦が図れて楽しい時間を過ごすことができました。

このような貴重な体験をさせていただき、大分保護観察所長やアジ研の皆様にお礼申し上げます。特にアジ研の事務担当の方には大変お世話になりました。

これからの更生保護活動にセミナーで学んだ事を生かしていきたいと思ひます。